

## 「みんなで、大宮小学校」

教頭 保坂 泰司

本日、平成30年度第1学期を無事に終えることができました。終業式では、子どもたちは背筋を伸ばしてしっかりとした態度で臨むことができ、4月当初からの成長を実感することができました。これも地域の方々による毎日の登下校の見守り、家庭でのあたたかな家族のふれあい等、皆様のご協力があったのことに感謝申し上げます。

さて、話は変わりますが、今学期、子どもたちの行動で「う～ん」と唸らされたことがありました。一つ目は、毎日クラスで一番最初に登校してくる子どもがおり、玄関などでいつも元気に私に挨拶をしてくれます。その後、彼は誰もいない教室に入るときに入口で必ず「おはようございます」と元気に挨拶をします。さらに、後から教室に入ってくる友だちにも一人ずつ挨拶をしています。今でも彼の毎朝の行動を見て、私はただ、「う～ん」と唸らされるばかりです。二つ目は、5年生が「館岩みどりの教室」へ行っている時のことです。清掃の時間に、普段5年生が担当している清掃場所を他の学年の子どもたちがきれいにしていました。彼らはただ、「5年生がいないから」と言って黙々と清掃に取り組んでいました。これを見て、また私は「う～ん」と唸らされてしまいました。

これらの行動から、私は「彼らは自分よりもクラスや学校のことを先に考え行動しているのではないか」と感じます。挨拶をする彼は、一日お世話になる教室や友だちに対して「よろしくお願いします」という気持ちを込めているのだと考えます。5年生の代わりに清掃をしてくれた彼らは、自分たちも毎日使っている場所であり、さらには学校に対して「ありがとうございます」という思いがあるからこそ、当たり前のようにそのような行動ができるのだと考えます。そんな彼らの心の中には、自分たちの大宮小学校を大切に、そしてよりよくしていきたいという願いがあると私は確信します。そんなことを考えていると、アメリカ合衆国の第35代大統領ジョン・F・ケネディ氏の次の有名な言葉を思い出しました。

**“Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.”**

と同時に私は、自分よりも他を考える子どもの行動は、今学期だけでも教師の知らないところで必ず多々あったに違いないとも思いました。本来であれば、それら子どもたちの行動一つ一つに対して教師が言葉を掛け、認め褒めてやらなければなりません。今となっては、非常にもったいないことをしたと痛感します。我々教師は、子どもの学校をよりよくしようとする態度や行動に早く気づき、認め褒めてやることで、子どもたち自身に自信をつけさせていくことが使命であり、これが、学校が子どもたちにしなければならないことの大切な一つと考えます。我々は、学校としてこのことを肝に銘じながら、友だちやクラス、そして学校のために自分から気づき、進んで行動できる子どもを育成していきたいと考えます。そして、これからも、今まで以上に「う～ん」と唸られる場面に遭遇できればと思います。

最後に、明日から約一か月間の夏休みに入ります。昨年と同様に、先日の懇談会でお配りした「すくすく のびのび 子どもの生活向上キャンペーン」に家族で取り組んでいただき、規則正しい生活及び健康安全に注意しながら有意義な夏休みにしてください。2学期の始業式に、たくましくなった子どもたちに会えるのを楽しみにしています。地域・保護者の皆様も引き続き子どもたちのよりよい成長のためにご協力をよろしくお願いいたします。

